奈良県・韓国ゆかりの地紹介

第三弾　　石舞台古墳・甘樫丘

今年は、奈良県と韓国忠清南道が 2011 年に友好提携を締結して 10 周年を迎える記念の年です。これを記念して、奈良県内にある奈良と韓国とのゆかりの地、特に忠清南道とのゆかりを中心にご紹介しています。第三弾となる今回は、石舞台古墳と甘樫丘をご紹介します！

国営飛鳥歴史公園内石舞台周辺地区の中央には、30 数個の岩で造られた巨大な古墳「石舞台古墳」があります。被葬者は不明ですが、6 世紀後半から 7 世紀初頭の権力者である蘇我馬子（そがのうまこ）の墓ではないかと言われています。

石舞台古墳は、玄室の長さ 7.7m、幅約 3.5m、高さ 4.7m、岩の総重量約 2300ｔで、その大きさから築造当時の優れた土木技術や運搬技術がうかがわれます。また、墳丘の盛土が失われ、巨大な両袖式の横穴式石室が露出しているのが特徴的で、墳形は、方墳又は上円下方墳であると推測されています。

石舞台古墳
（写真提供：明日香村教育委員会文化財課）

石舞台古墳石室入口

上円下方墳は、百済時代の最も一般的な古墳の墓制と言われているため、石舞台古墳も百済の石室の影響を受けたものと考えられます。石室の中には入ることができるので、私も実際に入ってみましたが、その巨大さと迫力に圧倒されました。前述のとおり、被葬者は明らかになっていませんが、当時、大きな権力を持っていた人物の墓であったことが想像できます。

また、春夏秋冬で違う景色を楽しむことができます。特に春には周辺に桜が咲き、とても綺麗です。季節によって様々な雰囲気が楽しめる石舞台古墳にぜひ足を運んで、古代飛鳥の歴史の息吹を感じてみてはいかがですか。

春の明日香村はここもお勧め！

甘樫丘（甘樫丘展望台）

飛鳥の中心にある標高 148mの緩やかな丘「甘樫丘」では、明日香村や藤原宮跡が一望できます。

古代の人々が、この丘に登り、飛鳥の風景を眺めながら詠んだ数多くの歌が万葉集に残っており、今でも万葉集に詠まれた桜やスモモの花などの万葉植物が植えられています。皆さんも甘樫丘に登り、飛鳥の景色を楽しみながら、昔の飛鳥人になった気分を味わってみてください。

甘樫丘から眺めた風景
（写真提供：一般財団法人公園財団飛鳥管理センター）

（奈良県国際交流員　南　炫汀）